

令和3年度学校評価の結果と改善策について

1 自己評価の結果

評価基準〔4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった〕

(1) 各部の自己評価

① 知的障害教育部門 小学部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
<p>①児童の人権や内面を尊重した関わりを行うとともに、児童が安心・安全に学ぶ学習環境の整備に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の児童の言動を注意深く観察し、児童理解に努めるとともに、共感的なやり取りに努める。 自閉症指導スタンダードの活用、学習環境チェックリストによるチェックを確実にし、改善に努める。 ヒヤリハット事例を学部全体で共有し、事故の未然防止に努める。 	3	<p>○教師が子供の特性、実態を細かく把握し、共感的なやり取りに努め、児童一人一人に対して適切に対応しようとした。</p> <p>○学習環境チェックリストを参考に教室内の配置や物の置き方などを工夫したり、ヒヤリハット事例を学部全体で共有したりするなどして事故の未然防止に努めた。</p> <p>▲子供がパニックを起こしたときにクールダウンができる部屋が必要である。</p>
<p>学校努力目標 (1) - ①②</p>			
<p>②育てたい資質・能力を明確にした授業づくり、「主体的・対話的で深い学び」に視点を置いた授業づくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元別指導計画表(国・算・体)を活用した一人一授業、研究授業・授業研究会を通して、育てたい資質・能力を明確にした授業づくりや「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業を実施・検証する。 授業連絡会や教科等部会などを通して、各教科等の指導計画・実践・評価に関する情報を収集し、授業改善につなげる。 	3	<p>○単元別指導計画表、プラン表などを活用することによって、指導目標や内容の明確化や職員間の共通理解が進んだ。「主体的・対話的で深い学び」に向けて、授業の中で児童の学習の頑張りを称賛する機会を増やしたり、ビデオなどを使って子供が自分の学習の成果を振り返る時間を設定したりするなどの工夫が多く見られるようになった。また、教師の行動、発言だけでなく、友達の行動や発言にも意識を向けさせるような働き掛けが増えた。</p> <p>▲教科等部会の取組は、今年度始めたばかりで、各教科等の指導計画・実践・評価に関する情報を得るには、十分ではなかった。次年度以降、部としても積極的に取組に関わり、情報収集に努めていきたい。</p>
<p>学校努力目標 (2) - ①④⑤</p>			
<p>③積極的に、地域の自然や公共施設等を活用した学習活動を行ったり、小学部の学習活動を地域に発信したりして、地域とのつながりを深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の公共施設等を活用した学習を積極的に計画・実施する。 学習の様子を定期的(毎月)に、HP等で紹介する。 	4	<p>○コロナ禍で活動に制限がある中ではあったが、学校周辺でのウォーキングや買い物学習、町探検などの校外学習で、積極的に地域の自然や公共施設等を活用できた。</p> <p>○毎月、各学級では学級だよりの作成・発行、部全体では部通信「あ小通信」のHPでの公開を行い、保護者や地域に小学部の学習の様子を伝えることができた。</p>
<p>学校努力目標 (3) - ③④</p>			

② 肢体不自由教育部門 小学部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
<p>①新型コロナウイルス感染症に対して十分に配慮を行い、安心安全な教育活動をめざす。</p> <p>学校努力目標 (1) - 4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策として、できる限り学級間の児童及び職員の接触を減らして3蜜を避けるとともに、手洗い手指消毒の徹底やマスク、フェイスシールドの着用など感染防止の配慮を行いながら、学級単位での学習の充実に努める。 ・校外学習や教育活動全般を通して、県内及び市町の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、学習内容や計画を十分吟味し、安心安全な教育活動を実施する。 	3	<p>○新型コロナウイルス感染症対策として、教材の共有をしない、換気の徹底、児童間の指導時のアルコール消毒、対面での学習ではフェイスシールドを活用するなど、基本的な感染症対策を行いながら、学習を充実させることができた。</p> <p>○校外学習や修学旅行、教育活動全般を通して、県内及び市町の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、学習内容や計画を十分考慮・検討して教育活動を実施することができた。</p> <p>▲児童が日常的にマスクを付ける練習の機会を増やす必要がある学級もあった。</p>
<p>②「主体的・対話的で深い学び」に視点を置いた授業づくりをめざす。</p> <p>学校努力目標 (2) - 4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画や単元別指導計画表を基に、教師間で児童の目標や指導内容、手立て、評価等を共有したり、児童の表出を待つ場面や声掛けの方法、T.T.の役割など指導の工夫を確認したりすることで指導の一貫性を図る。 ・研究授業を通して、教師間で授業内容や指導方法などを振り返りながら授業の精度を高めていく。 	3	<p>○どの学級においても個別の指導計画や単元別指導計画表を基に、教師間で児童の目標や指導内容、手立て、評価等を共有したり、児童の表出を待ったり言語活動を大切にしたりしながら指導することができた。</p> <p>○1課程では、ICT機器を活用して自分の意見をまとめる学習や、発表する学習において、自分たちで意欲を持って考えながら作成することができた。また、作成したものを自分で見て推敲することができるようになっていく。</p> <p>▲1課程では、少人数であることから国語科、道徳など、話し合い学習の難しさがある。そのため今後、中学部や居住地校とリモートで合同学習を行うことで課題解決できるよう計画していきたい。</p>
<p>③生涯学習や生涯スポーツなどのきっかけとなる授業づくりをめざす。</p> <p>学校努力目標 (2) - 7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・余暇活動や将来の社会参加を見据え、必要となる知識や技能を習得させることを目的とした授業を計画する(例:体育のボール運動の授業にボッチャやハンドサッカーなどを取り入れる、パソコンに関する授業、プログラミング教育など)。 	3	<p>○タブレット端末で余暇活動を楽しんだり、図書に親しみをもったり、パラスポーツに興味をもったりと、学習したことを休み時間にも自分たちで取り入れて遊ぶ姿が見られるようになった。</p>
<p>④小学部の学習活動を積極的に発信したり、協同した学習活動を取り入れたりとすることで、地域の人々や環境とつながることをめざす。</p> <p>学校努力目標 (3) - 2・3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを通して、学習活動や学部の様子を定期的に発信する。 ・学校間交流や居住地校交流において、直接的な交流だけではなく、間接的な交流(手紙やビデオレターのやり取り、リモート交流など)を積極的に行う。 	3	<p>○学校間や居住地校における交流及び共同学習では、間接交流で実施したが、手紙やビデオレターだけでなくICT機器を活用したりリモート交流を多数実施したりすることができ、とても有効的だった。</p>

③ 知的障害教育部門 中学部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①生徒の人権や内面を尊重した指導・支援を行うとともに、安全、安心に過ごせる学級・学部づくりをめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の不安や悩みに目を向け、生徒の内面に対する共感的理解をもって生徒理解を深める。 ・好ましい人間関係を基礎に、豊かな集団生活が営まれる学級や学部の教育環境を形成する。 ・ヒヤリ・ハット事例を共有し、組織として事故防止に取り組む。 	3	<p>○生徒が不安定なときは、その都度全職員で共通理解の話し合いを行った。生徒一人一人の特性に応じた指導・支援を行ったことで、集団の中で落ち着いて過ごせる生徒が増えた。</p> <p>▲不安や悩みのある発達障害児の指導には、高度な専門性が必要である。他機関との連携と研修を深めたい。</p>
学校努力目標（1）—①			
②「主体的・対話的で、深い学び」を工夫しながら、育成を目指す資質、能力を明確にした授業づくりをめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元別指導計画表を基にした一人一授業、研究授業を通して、「主体的・対話的で、深い学び」を視点にした具体的な授業づくりについて、研修を深める。 ・授業連絡会、教科等部会等を通して、単元、授業レベルの計画、評価、改善を徹底する。 	3	<p>○授業研究会では、学びの質を高めるための活発な議論が行われた。主体性やキャリア形成、社会の中で生かせる力などについて研究を深めることができた。</p> <p>▲校務支援システムの導入に伴い、学習評価の充実が課題である。</p>
学校努力目標（2）—④			
③社会に開かれた教育課程の実現に向けて、自立と社会参加に向けた教育活動の充実をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画を活用し、家庭・保護者との共通理解を図りながらキャリア教育を進める。 ・小中高連携した教育活動を通して、学びの連続性を重視した取組を行う。 ・地域や社会資源を活用した教育活動を通して、豊かな体験活動の充実を図り、幅広い学習や生活の場で活用できる力を育む。 	3	<p>○個別の教育支援計画を活用したケース会議が9件行われ、支援の在り方や方向性について、保護者や関係機関を交えた話し合いを行い、共通理解ができた。</p> <p>○小中高の職員が一緒に話し合う教科等部会や進路指導に関する話し合いを行い、来年度に生かせるようにした。</p> <p>○学習活動に制約がある中、新しい生活様式を踏まえた体験学習等を行うことができた。</p>
学校努力目標（3）—③			

④ 肢体不自由教育部門 中学部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
<p>①新型コロナウイルス感染症に対して十分に配慮を行い、安心安全な教育活動をめざす。</p> <p>学校努力目標 (1) -④</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活様式を意識したチェックリストを5月までに作成する。放課後、主体的に手洗いや消毒などを行えたか、体温や体調の変化がなかったかを生徒に自己チェックさせる。 ・生徒同士の距離の確保、対面で食事をしない、黙食を心掛ける、換気をするなど、週始めの職朝で毎回アナウンスし、職員意識化を図る。 ・職員室や教室などの換気が十分行われているか、生徒間の距離が保たれているかなど、一日当たり2回程度チェックする。 	3	<p>○本校の感染症対策プランを基本とし、わかす部門は更にその対策を強めた対策案を部主事間で共有し、職員に伝えて感染症対策に努めた。</p> <p>▲チェックリストの作成には至らなかった。</p>
<p>②「主体的・対話的で深い学び」に視点を置いた授業づくりを行う。</p> <p>学校努力目標 (2) -④</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案、校外学習届等作成時には「主体的・対話的で深い学び」につながる生徒のイメージを記載するよう、担当者と十分な協議をする。 ・意識的に形成的評価ができるよう、部会の中で「工夫している手立て」について情報を共有し、授業改善をしていく土壌を作る。 ・学期単位の学習活動を振り返る評価の視点に加え、PDCAのサイクルを職員に意識させる。 	3	<p>○一人一授業、経年研での指導案、各種届等を基に全ての担当者と事前、事後に協議し、学習内容、手立て、評価について協議を深めることができた。</p> <p>▲小学部1段階に特化した他県の学習内容表を職員に配付した。1段階相当の生徒に「何をねらうか」「どういった手立てが有効か」「評価の在り方」などを考えるきっかけを作ったものの、「主体的・対話的で深い学び」に視点を置いた授業改善にまでは到達できていない。</p>
<p>③生涯学習や生涯スポーツなどのきっかけとなる授業づくりをめざす。</p> <p>学校努力目標 (2) -⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ボッチャ愛好会」を設立。練習や対外試合を通じて、運動する楽しさ、仲間とスポーツをする楽しさを感じさせる。 ・県内、及び県外の学校を含め、eスポーツと一緒に取り組む相手や環境を整備する。 ・生徒が動画を企画・配信する「ワチュチャンネル」を開設予定。 →自分たちで内容を企画、撮影、配信された動画を観たりすることで、ICTを使う楽しさを感じさせる。 	4	<p>○ボッチャ愛好会には中学部生徒5名が在籍。木谷杯、サン・アビリティーズ佐世保 第4回障害者スポーツ大会、障害者ボッチャ甲子園予選に参加した。毎週水曜日の練習も生徒たち意欲的に取り組んだ。</p> <p>○諫早特支とのオンラインオセロ大会を年内2回設定した。他校生徒との交流になったことに加え、文化系の活動にも生徒の関心が広がり、余暇活動が拡充するきっかけになっている。</p> <p>○3組生徒の「ワチュチャンネル」は、フェイスブック上で12月末までに13本の動画を発信した。生徒が内容を企画することで、生徒の興味や関心も大きく広がった。</p>
<p>④中学部の学習活動を積極的に発信したり、協働した学習活動を取り入れたりすることで、地域の人々や環境とつながることをめざす。</p> <p>学校努力目標 (3) -④</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページにわかす中学部の情報発信コーナーを設定し、週に2回更新する。 ・佐世保商業高等学校から講師を招き出前授業を受ける。(7月14日)SDGsに取り組み、大麦からストローを作る。 ・コンビニエンスストア、道の駅を通じて地域への販売活動を行う。 	4	<p>○HPは、ほぼ週2回の更新を行い、1月末までに全60号まで発信できた。</p> <p>○佐世保商業高校の出前授業をきっかけに、麦わらストローを給食時に使用したり、きらフェスで商品を販売したりすることにつながった。次年度も持続できるようにしたい。</p> <p>○コンビニエンスストア、道の駅でのマスク販売活動も2年目になり、軌道に乗っている。新たな商品開発が一つあった。</p>

⑤ 知的障害教育部門 高等部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>①コース制を実施しながら、学習内容や指導体制、実習の方法などについて改善及び充実を図る。</p> <hr/> <p>学校努力目標 (1)－① (1)－⑥</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合コースにおいて、各教科の「単元別指導計画表」の指導内容について、実践を通して見直しを行う。 ・生活コースにおいて、学級編制の在り方や指導体制について、昨年度の取組（総合コースと合わせた学級編制）と比較しながら、より良い在り方を考える。また、学習内容などについて実践しながら、更に改善を進める。 ・職業コースにおいて、デュアルシステム型実習の実践を行い、より良い方法について検討する。また、学校設定教科「自立と共生」についても内容の検討を行い、改善する。 	3	<p>○令和5年度から教科として設定することを想定し、理科と社会の内容について実践したことが年間指導計画の整理につながった。</p> <p>○生活コースは、同じ学年の生徒と3年間しっかり関わりながら生徒に合った学習をしていくために、次年度は総合コースと合わせた学級を編制し、学習形態は今年度どおり生活コースの時間割で行うことを決めるなど、より良い方向への改善ができた。</p> <p>○「自立と共生」は、指導内容の見直しをし、検討した上で、「職業」に統一するようにした。</p> <p>○デュアルシステム型実習は、普段とは異なった作業内容だったこと、場所を変えて行ったことで、成果が得られ、体力の向上にもつながった。今後は年間を通した取組につなげていく。</p> <p>▲「単元別指導計画表」は、「個別の指導計画」との関連をもたせ、使いやすくするために改善する。</p>
<p>②生徒の進路ニーズを把握し、それに応じた指導ができるように、職員一人一人の進路指導に関する専門性を高める。</p> <hr/> <p>学校努力目標 (1)－③ (2)－①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路先について、担任以外の職員も把握して指導できるように、共通理解できる機会を設ける。 ・職員一人一人の基本的な進路指導に係る知識を高めるために、進路指導部と連携し、部会等で進路指導に係るミニ研修会などを実施する。 	3	<p>○生徒の進路先については、各学年会などを通して情報共有ができ、個々の進路先を踏まえた授業を進めていくことにつながった。</p> <p>▲ミニ研修会は、時間を確保できず実施が難しかったため、次年度はICT機器の活用など、可能な方法で取り組む。</p>
<p>③地域の環境や、地域の人々とつながる活動を積極的に授業に取り入れ、生徒の社会性の成長発達や自己有用感の育成をめざす。</p> <hr/> <p>学校努力目標 (3)－①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を十分行いながら、総合的な探究の時間や生活単元学習、特別活動などにおいて、地域の人や物と触れ合える学習活動を積極的に行う。 ・作業学習（校内実習を含む）で、地域の企業や事業所を連携した委託作業などを取り入れる。 	3	<p>○校内実習で近隣の土地の除草作業に取り組み、地域の方に感謝されたことで働く意欲や喜びにつながった。</p> <p>○生活コースは、昨年度からの継続で地域の方と交流を深めることができた。</p> <p>▲コロナ禍の影響もあり、直接的な交流活動の実施が難しかった。コロナ禍でもできる方法について探っていきたい。</p>

⑥ 肢体不自由教育部門 高等部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
<p>①生徒の「主体的・対話的で深い学び」を促す授業づくりに努め、新学習指導要領を踏まえた教育課程の編成を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における生徒の表出(発言、表情等の変化など)を引き出すための教材教具の工夫や関わり方(発言や表出を待つ姿勢など)の改善を行い、教員間で積極的に意見交換を行う。 ・生徒自身が「選択する」「決定する」場面を意図的に設け、生徒主体で授業を展開する。 ・個別の指導計画や単元別指導計画表、校外学習届等を育成を目指す資質・能力の三つの柱(知技/思判表/学人)を意識して作成し、授業の中で実践する。 ・単元別指導計画表の活用を進め、単元開始前の事前打合せや単元後の評価等の話し合いを活性化させる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○学部会をはじめ、自立活動を中心とした目標設定会議等を活用して、各生徒の課題や指導の方向性を担当者間で共有できた。 ○令和4年度から実施される新学習指導要領に沿った教育課程の編成、生徒の学習段階に合った教科書採択ができた。 ○各授業及び校外学習(修学旅行等)においては、三つの柱で目標設定と指導、評価ができた。 ▲ティームティーチングの指導体制をとる授業において、指導計画を主担当に委ねることが多く、担当者間で協議する機会が十分設定できていない。
<p>学校努力目標 (2) - ⑨</p>			
<p>②生徒一人一人に応じた授業づくりを行いながら、進路実現に向けた教育内容の選択と進路指導の充実に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活や進路を想定して、異なる状況でも生徒自身のもてる力を発揮できるよう、場の設定を工夫したり生徒自身が必要な支援を依頼したりすることができるように指導する。 ・卒業後の社会生活を念頭に置きながら、進路指導に関わる情報を本人及び保護者に随時提供する。 ・社会体験学習を実施する際、生徒自身が卒業後の生活を実感できるような工夫を行い、3年間の社会体験学習の積み重ねを重視する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ○特にⅢ課程(知的代替)とⅣ課程(自立活動主)の授業では、生活力の向上につながる学習内容が多く、進路指導につながった。 ○進路指導部が中心となって情報収集や相談支援員の協力依頼を行い、正確な情報と幅広い選択肢から進路決定につながった。 ○後期の社会体験学習は、体験期間を10日(2週間)に延長した。各生徒の実績と課題がより明確になり、その後の学校生活や保護者の意識に効果が見られた。
<p>学校努力目標 (2) - ⑥</p>			
<p>③生涯学習や生涯スポーツなどの学びにつながる授業づくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先での活動を体験的に学べる場を設定し、生徒自身の余暇活動への興味関心を高めたり、広げたりできるようにする。 ・教育活動全体を通して、音楽やスポーツ活動を充実させ、卒業後の生活につながる余暇活動を意識した指導内容の精選を図る。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学校ポッチャ大会(木谷隆行杯)の参加に向け、熱心に練習に取り組んだ。 ▲今年度からポッチャ同好会が発足したが、生徒の積極的な参加に至っていない。 ○授業を通して、様々な運動競技や音楽など、生徒の興味関心に合わせた内容を扱った。
<p>学校努力目標 (2) - ⑦</p>			
<p>④社会に開かれた教育課程づくりを行う中で、生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページを活用するなどして生徒の活動を積極的に外部に発信し、家庭や地域社会とのつながりを強化する。 ・卒業後の生活に必要なコミュニケーションの力を部内で十分に検討し、共通理解を図った上で、一貫した関わり方を心掛ける。 ・ICT機器(タブレットPCやVOCA)などを活用し、他者とのやりとりを相互に行う機会を意図的に設定する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○学級通信や校内掲示で保護者や校内向けに学習の様子を伝えることができた。 ▲学校ホームページを活用した情報発信はできなかった。 ○周囲へ依頼する手段など、コミュニケーション方法について学級で話し合いながら指導した。また、必要に応じて部で共通理解を図った。 ○タブレットPCや電子黒板の活用は十分できている。
<p>学校努力目標 (2) - ③ (3) - ④</p>			

⑦ 高等部上五島分教室

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
<p>①社会で活躍するために必要な知識・態度・体力の定着を図り、授業の工夫・改善に努める。</p> <p>学校努力目標 (2) - ①④</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元別の指導内容表を活用して授業を行い、実施後に授業内容や指導方法について評価し、今後の実践に生かす。 ・教科別指導において、教科書やNHK for Schoolの映像を中心に教材を準備し、生徒が理解しやすく記憶に残りやすい教授法の実践と授業準備時間の削減に取り組む。 ・生活単元学習を社会と理科の分野に限定し、社会と理科の教科化に向けた実践に取り組む。 ・翌週の授業内容を保護者に事前に伝えることで、家庭内での学習の振り返りを促す。 	4	<p>○単元別指導計画による実践を行い、改善策を次回(翌年か3年後)の授業に反映させることができた。</p> <p>▲単元別指導計画は全ての授業で策定できていない。本校と連携して早期に完成させたい。</p> <p>○NHK for Schoolの動画を用いることで、生徒の理解を促すことができた。また、授業の準備時間を短縮できた。</p> <p>○社会と理科は、3年間で学習指導要領が定める内容を全て学ぶことができるようにできた。</p> <p>▲望ましい教科書がないために教科として実践できない。</p> <p>○次週の授業内容を保護者に伝えることができたことで、忘れ物が減った。学習したことを家庭で話題にすることも増えた。</p>
<p>②自己選択・自己決定する力を高めながら進路実現を図り、自立する力を育成する。</p> <p>学校努力目標 (2) - ④⑥</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元別の学習計画等の中に、考えたり選択したりする場面を設定する。 ・クラスメイトみんなで楽しむ活動を、生徒だけで企画運営させることに複数回取り組ませる。 ・進路指導部と各学級担任が協力し、企業や福祉施事業所の情報収集や保護者への情報提供を行う。 	3	<p>○授業の中で、答えが一つでない問題を話し合う場面を設定することができた。</p> <p>○学級活動の内容を生徒が中心になって考えることができた。</p> <p>▲初回の実践までに時間を要し、PDCAサイクルによる改善が難しかった。</p> <p>○生徒や保護者の意見を尊重して職場開拓や情報提供ができた。</p> <p>▲進路先の選択を悩み、2学期中に進路先が決定しない生徒が2人いた。</p>
<p>③自分も他者も大切にできる心を育て、上五島地区の発展に寄与するための教育実践に取り組む。</p> <p>学校努力目標 (1) - ① (2) - ④ (3) - ①④</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等において、道徳教育や人権教育の内容を意識して指導に当たり、生徒の道徳観や人権に対する意識を高める。 ・次年度に道徳の時間を新設することを旨として校内研究に取り組み、年間指導計画や教材を作成する。 ・幼・保、小、中、高校からの教育相談に伝えるだけでなく、島内全ての学校を訪問・見学することで関係性を深め、連携がとりやすいようにする。 ・分教室の教育や障害のある人への理解を促すために、分教室だよりの発行や学校公開、中学校での学校紹介、職場開拓などに取り組み、特別支援学校、特別支援教育について説明することで啓発活動を行う。 ・地域清掃の回数を増やしたり、空地に花を植えたりして、地域の美化に努める。 	4	<p>○道徳教育を校内研究で取り組み、学習指導要領が定める内容全てを3年間で学習する指導計画を作成することができた。次年度から週1時間新設する予定。</p> <p>▲道徳の教授方法の改善や教材研究に関しては、次年度の実践を通して取り組みたい。</p> <p>○1学期中に島内全ての学校を訪問することで、相談を依頼する学校数が増えた。</p> <p>○通常学校の教員を招いての授業公開(作業技能検定、書かない授業法)や研修会(福祉サービスの活用法、職業訓練校の実践)に新たに取り組むことができた。</p> <p>○分教室通信の発行、中学校での学校紹介、職場開拓、作業学習製作物の提供、長崎新聞への掲載などを通して、分教室や特別支援教育に対する理解を高めることができた。</p> <p>○天候不順のために地域清掃の回数は昨年並みであったが、学校周辺での整地・花栽培面積が1.5倍に増えた。</p>

(2) 各分掌部の自己評価

① 教務部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
<p>① 校務事務支援システムの導入・運用に向けて、個別の指導計画の効果的な活用の在り方について検討を進め、単元別指導計画表との関連をより意識したカリキュラム・マネジメントを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を実施するとともに研究部と連携して各担任へ周知し、システムによる帳票作成・出力が円滑に始められるようにする。 ・本校の「カリキュラム・マネジメント概念図」を基に、各帳票や指導計画が担う役割について整理する。 	3	<p>○個別の指導計画では、研究部と協力し、評価シートの活用による評価規準による評価と、評価基準の設定を全校で共有できた。</p> <p>○校務支援システムの導入・運用に向けて、使用方法等の研修を行うことができた。</p> <p>▲評価シートと各教科の指導内容のチェックシートについて、今後一本化できないか検討を進めたい。</p>
<p>学校努力目標 (2) - 1</p>			
<p>② 各教科等部会の活性化を図り、小・中・高の各教科等の系統的な指導内容の整理、評価について研究を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育部門別に年8回の教科等部会を計画し、現在の年間指導計画を基にして、小・中・高における内容の取扱いについて共通理解を深める。 ・教科等部会により改善の方向性について整理がなされた部分については、次年度の教育課程や年間指導計画の編成作業につなげる。 	3	<p>○年間指導計画及び教科書の取扱いなど、小・中・高の系統性を全校で協議し、指導内容等の共通理解ができた。</p> <p>○あたご部門は今年度からの取組で情報交換が主な内容となったが、全校的に実施でき前向きな取組となった。</p> <p>▲回数やグループ編制については、次年度に向けて検討したい(学期に一回程度、両部門合同での実施を行うなど)。</p>
<p>学校努力目標 (2) - 5</p>			
<p>③ 知的障害教育部門高等部(本校)において、職業教育の充実に関する研究に取り組み、職業学科導入の検討、コース制の充実について整理を行う。</p>	<p>〈コース制に関して〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合コースにおいて、実践を通して各教科の指導内容の検証や見直しを行う。 ・生活コースにおいて、昨年度の取組と比較しながら学級編制の在り方や指導体制についてより良い在り方を考える。また、実践しながら学習内容などの改善を図る。 ・職業コースにおいて、デュアルシステム型実習の在り方を検討し、試行しながら改善する。また、学校設定教科「自立と共生」の目標や指導内容について、実践を踏まえて教科「職業」との違いや設定する意義について検証し、見直しを行う。 <p>〈職業学科に関して〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現職業コースの実践を生かした学科・コースの設定、コース選択の方法を検討する。 ・履修する専門教科の選定を含めた教育課程の編成や指導体制について検討する。 ・現場実習やデュアルシステム型実習の実施方法を検討する。 	3	<p>○教育課程の見直しや指導内容の検証は、グループを編制し、定期的に検討の場を設けて全職員で取り組むことができた。</p> <p>○部会で学級編制の在り方や指導体制、指導内容の検証を行い、次年度の各コースの設定について改善を図ることができた。</p> <p>○デュアルシステム型実習については、今年度新たな実習先を開拓して実習することができた。</p> <p>○学校設定教科「自立と共生」は、指導内容の精選と検証を行い、廃止して教科「職業」に一本化することを決定した。</p> <p>○コース制の充実を図りながら、これからの本校高等部の在り方として、普通科と職業学科のどちらが適当か部内で検討し、より良いキャリア教育の充実に向けて今後も取り組んでいくことを共通理解できた。</p> <p>▲専門教科の選定や指導体制などについて、全職員で検討する場を設け、共通理解していくことが必要である。</p>
<p>学校努力目標 (2) - 8</p>			

② 研究部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>①「育成すべき三つの柱に基づいた各教科における指導内容と学習評価の検討」を目指し、個別の指導計画の学習評価をより良い教育課程編成につなげる取組を行う。</p> <p>令和3年度の取組：個別の指導計画（新様式）による目標・指導内容設定から評価までの検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「指導と評価の一体化」を目指し、学習指導要領で示された指導内容を基に、評価基準を作成する。 ・個別の指導計画や各教科等における評価規準（評価基準）について、協議をしながら作成していくことで、評価規準と評価基準の違いや意味について理解する。 ・各教科等の評価シート（指導内容・評価規準）を作成し、学習指導案の作成や単元別指導計画表の作成に生かすことができるようにする。 ・評価規準を基に事例研究や研究授業を行い、単元別指導計画表に基づく授業を行うことができるようにする。 ・校内研修会や講師招へい研修会を行い、学習評価についての理解を深め、「指導と評価の一体化」の重要性について理解する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領で示された指導内容を基に評価規準を作成することができた。 ○評価シートについては校内で協議を行い、ルールづくりを行い、マニュアルとしてまとめることができた。 ○各部で研究授業を行い、評価をどのように行うか協議、検討することができた。 ○単元別指導計画については様式の再検討を行い、次年度から運用を行う。 ○校内研修会、講師招へい研修会を行い、「指導と評価の一体化」について理解を深めることができた。 ▲次年度も個別の指導計画、単元別指導計画の作成を行いながら、研究会で協議・検討を行うことで、「指導と評価の一体化」を目指す。
<p>学校努力目標（2）—⑤</p>			
<p>②研修案内、公開授業や他部・他部門研修を行い、教職員が自主的な研修を行うことをめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一授業を行い、教職員の授業の質の向上や授業改善への意識を高める。 ・他部、他部門研修を行い、児童・生徒理解を深める。 ・長肢研、九肢研、長特研、九特連の業務を行い、研修に参加する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○全教員が一人一授業を実施し、授業改善への意欲を高めることができた。 ○他部、他部門研修を行い、互いに理解を深めることができた。 ○校内研修会と講師招聘研修会を行うことができた。 ○新型コロナウイルス感染症のため、各実施状況に応じて参加した。
<p>学校努力目標（2）—④</p>			

③ 生活生徒指導部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①非常時に備えた危機管理能力の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校安全管理マニュアルの改訂及び周知徹底 ・ 計画的な登下校指導の実施 	3	<p>○集中豪雨や大雪等による引き渡しマニュアルの作成を行うことができた。今後は訓練を行うことを検討していく。</p> <p>▲学校安全管理マニュアル（不審者、火災）の見直し、検討を行っている。</p> <p>○毎学期始めの週には、佐世保駅、学校周辺に職員を配置し、当行の安全指導が指導できた。</p> <p>▲避難訓練を通して、検討する予定である。</p>
学校努力目標（1）—③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難経路の検討 		
②安全点検の徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全点検表の確認と報告の徹底 ・ 正確で迅速な報告を徹底 ・ 門の施錠の確認の徹底 	3	<p>○安全点検表の提出について期日までに提出ができるように促している。</p> <p>○事務室の方で素早く修理点検を実施していただいた。</p> <p>▲普段は登校後門の施錠は徹底されているが、面談時に施錠されていないときがあった。</p>
学校努力目標（1）—②			
③豊かな心の教育の実践を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「長崎っ子のこころを見つめる教育週間」における地域・保護者との連携強化 ・ 「道德の日」、「ありがとうの7日間」の教育活動の充実 	2	<p>▲コロナ禍ということもあり、今年度も外部から人を招くことができなかった。</p> <p>▲職員への説明が遅れ、各学部が取組が一斉にスタートできなかった。</p>
学校努力目標（3）—③			

自己評価の数値が「2」以下の項目について

努力目標の番号	次年度に向けた改善策
③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度の「長崎っ子の心を見つめる教育週間」の実施計画については、教務と連携を図りながら行っていきたい。 ・ 「道德の日」、「ありがとうの7日間」の取組について、年度当初に職員全体への説明を行っていきたい。

④ 保健体育部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
<p>①生徒が安心・安全に活動ができる環境を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃日の設定とともに、日々のチェックや行事前等のチェックを実施。ワックス掛けの実施。 ・児童生徒下校後の消毒作業。 ・環境整備のための掃除用具や教材等の道具の管理及び整理を、時間を確保して行う。 ・体育的行事や授業内における安心・安全に配慮した授業環境（内容等も含む）の整備（授業のUD化）を行う。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークサポートの活用により、効率的に行うことができた。今後も計画的に活用したい。 ○▲工事等と重なり、ワックス掛けを実施できなかった。一方、最近のワックス掛けの動向に応じて、施設メンテナンスの在り方を考える機会となった。 ○▲消毒作業を効率的に行うための下校時の工夫等により、職員への負担が軽減できた。一方、地域の感染状況を鑑みた消毒作業のレベルの調整について、管理職との連携が更に必要。 ○▲掃除用具及び教材等の道具の管理及び整理に関しては、以前からの重要課題であり、今年度も積み残しが多い。一方で、施設利用のルールの文言化や不必要物の整理・処分等の実施ができた。 ○▲授業運営に際し、コロナ禍を踏まえた安全・安心かつ、効率的な運営を目指した。UD化については、自立活動部とも連携し、各学部の成果等を踏まえて今後進めたい。 ▲児童生徒の人数増とコロナ禍による分散授業を工夫して行ったが、物理的に場所の確保が必須。
<p>学校努力目標 (1) -①、②、④ (2) -⑦</p>			
<p>②健康教育の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に向けたブラッシング指導及び職員向けの研修会を行い、歯や口の健康への意識を高める。 ・アレルギー対応について周知を図り、校内体制を整える。 ・毎日の健康観察及び検温を徹底し、早期に対応できるようにする。 ・衛生行動（手洗いやうがい及び手指消毒など）の習慣化に向け、日々の生活に般化させるための授業との連携を図る。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ▲ブラッシング指導は、コロナ禍のため十分な取組には至らなかった。感染症予防の観点からも歯磨きの重要性はあるので、状況に応じた取組を模索していきたい。 ○▲緊急時のアレルギー対応について、マニュアル等を基に運用を行った。職員全体の危機管理の意識の向上を目指し、ヒヤリハットの情報共有をするとともに、何らかの形で職員の対応手順等の研修を行いたい。 ○▲毎朝の健康観察及び検温等により、体調不良時には早期対応ができた。家庭での対応の周知等については課題。 ○▲衛生行動の更なる習慣化に向け、家庭との連携や寒冷時期における衛生面の確保の工夫等が必要。
<p>学校努力目標 (1) -④</p>			
<p>③食育に関する指導を充実し、児童生徒の健康教育と体力向上、更に健康意識の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全を徹底できるように、給食説明会を全職員に行うとともに、異物混入時のマニュアルの再確認及び対応訓練を実施する。 ・児童生徒への食育啓発のために、食育の日には食に関する掲示を行ったり、献立表で知らせたりする。また、食育検討会で給食に関する課題などを十分検討する。 ・職員及び保護者への食育啓発に向け、部会等を通じたの伝達や、配付物等で日々の疑問に応えるような情報提供及び発信を行う。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月食育の日には、実物を触って楽しめるように提示したり朝の会で説明したりすることで、児童生徒の興味関心を高めることにつながる部分があった。 ○食育検討会を実施し、各部、学年における反省を確かめ合った。 ○保護者向けの理解啓発文書の作成及び配付を行った。家庭の日頃の悩みに答えるような内容で、身近な情報として捉えていただけるように工夫した。
<p>学校努力目標 (1) -④ (2) -⑦</p>			

⑤ 進路指導部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①進路決定について、生徒・保護者のニーズや実態に適した学習の計画や進路面談の実施によって「希望進路実現100%」をめざしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・面談や進路希望調査などで、ニーズを把握する。 ・相談支援事業所、就業・生活支援センターに必要なに応じて面談に参加してもらい、ニーズに応じた情報を提供する。 ・面談などでは、進路希望に応じた資料を用意して活用する。 	3	<p>○面談では、資料の活用や関係機関からの協力を得て、可能な限りニーズに応じた情報を提供することができた。</p> <p>▲定期的に進路に関する情報を通信として配付することができれば良かった。</p> <p>▲新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、福祉サービス利用のための合同ガイダンス開催を考えていきたい。</p>
学校努力目標（2）－6			
②小中高一貫したキャリア教育の取組を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学部の高等部作業体験などを行い、将来像を喚起しやすくする。 ・キャリア教育全体計画の見直しを図る。 	3	<p>○新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、作業体験は行うことができた。</p> <p>▲キャリア教育全体計画を活用してもらえるように、全体に周知していく必要がある。</p>
学校努力目標（2）－5			
③生徒・保護者が卒業後の進路を意識できるように積極的な進路情報の提供を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査に、知りたい情報や必要な情報を記入してもらい、それに応じた情報提供（資料）を面談で行う。 ・生徒の相談に答えたり、必要な情報提供を行ったりすることができるように、進路相談室を昼休みなどに設ける。 	3	<p>○3年生の保護者には、ニーズに応じた必要な情報を紙媒体にして、個別に説明を行うことができた。</p> <p>○PTA 研修会の協力を得て、4事業所に来ていただき、福祉施設の説明会を行うことができた。</p> <p>▲学校 HP を活用できていないので、今後は利用して情報提供を行いたい。</p> <p>▲相談室は可能な限り行ったが、相談室はなかなか時間を設けることができなかった。</p>
学校努力目標（3）－4			

⑥ 自立活動部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①自立活動の指導力向上をめざすとともに、「自閉症スタンダード」の確実な実践をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度のアンケートを元に研修会の内容を検討し、企画、運営する。また、必要に応じて小グループでの学習会を企画する。 ・外部専門家活用事業の全体化を図り、指導に生かす。 ・自立活動だよりを通じて、「自閉症指導スタンダード」の内容について理解を深めたり、活用事例を紹介したりする。 	3	<p>○外部専門家研修会の際に、自閉症指導スタンダードを活用して講義をしていただいた。</p> <p>▲希望する職員に自閉症指導スタンダードの研修の場を設けるなど活用について理解を深めていく必要性を感じている。</p> <p>○自主学習会をいくつか開催することができた。部門のニーズに応じた学習会も検討していきたい。</p>
学校努力目標（1）—②			
②目標検討会、評価会等を円滑に運営し、実態把握から授業改善までのPDCAサイクルによる自立活動の授業実践をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会等で目標設定シートを活用し、手続きについての理解を深める。また、目標設定シートを活用した個別の指導計画の記入などについて研修を行う。 ・目標検討会、評価会を通して、PDCAサイクルによる自立活動の授業実践を働き掛ける。また、目標設定シートの作成、活用を呼び掛ける。 	3	<p>○個別の指導計画や目標設定シートを活用した研修会を企画、運営した。新様式の個別の指導計画の記入や評価などについて理解を深めることができた。</p> <p>▲目標検討会、評価会をよりよくしていくために、各部の実情に応じた実施方法などを検討していく必要がある。</p>
学校努力目標（1）—②			
③保護者への自立活動の指導に関する理解啓発を進める。また、リハビリ見学など関係機関との連携の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・外部専門家活用に関わる研修事業の活用の充実を図る。 ・発達センターを始め、関係機関へのリハビリ見学や学校訪問について、日程等の連絡調整を行う。 	3	<p>○前年度実施できなかった外部専門家活用事業に係る事例検討会・研修会を実施することができた。</p> <p>○新入生を中心とした発達センターなどの関係機関からの来校や、長期休業日を利用したリハビリ見学で情報を共有することができた。</p> <p>▲保護者の自立活動の理解、啓発について、やり方を考えていく必要がある。</p>
学校努力目標（3）—③			

⑦ 教育支援部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①個別の教育支援計画の策定に向けて、参考資料の活用について周知するとともに、課題を整理し、改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画の策定に向けて共通理解を図るために、学期初めに職員に説明を行う。 ・活用しやすい資料を作成する。 ・改善が必要な点や課題を集約し、年度内に資料の修正をする。 	3	<p>○年度始めに個別の教育支援計画の策定や新様式、現様式の説明を行った。</p> <p>○活用のための資料を作成したので、来年度から使用していく。</p> <p>○改善が必要な点などの集約は、記入後の1学期に行うことで意見が集まりやすかった。</p> <p>▲個別面談時の保護者駐車場の計画や準備に時間が掛かり、分掌部員の負担になっているので、今後やり方などの検討が必要である。</p>
学校努力目標（1）－⑨			
②教育支援会議の成果と課題を整理し、次年度の教育支援会議につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援会議の実施状況を報告してもらい、実施件数を把握する。 ・教育支援会議に関する課題等を洗い出し、改善につなげる。 	3	<p>○実施状況や進め方などの意見を学期ごとに把握できた。</p> <p>▲教育支援会議の進め方など一部検討できなかったところがあるので、今後検討が必要である。</p>
学校努力目標（1）－⑨			
③居住地校交流の成果と課題を整理し、交流方法の在り方を探りながら、改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手校との打合せに関するアンケート調査を行い、資料等の改善に努める。 ・間接交流の方法について、相手校と協力をしながら方法を考えたり、情報部と相談しながら準備をしたりする。 	3	<p>○リモートでの交流について、情報教育部に協力してもらいながら進めることができ、リモートでの交流が増えた。</p> <p>▲リモート交流では、準備など時間が掛かり、担任の負担になっているので、利用しやすい方法を今後も情報教育部と協力しながら検討していく必要がある。</p>
学校努力目標（3）－③			

⑧ 地域支援部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>①特別支援教育のセンター的機能の発揮に努め、県北地域の特別支援教育の充実・発展を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関や就学相談等、各機関の役割を明確にし、教育相談に対応する。必要に応じて関係機関等から情報収集を行い、必要な情報を提供する。 ・新型コロナウイルス感染症の状況を見て、対策を取りながら夏季教育相談を実施する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○依頼のあった相談に対して、内容に応じて必要な情報を事前収集し、助言等を行った。 ○7件の研修依頼に対応。できるだけ対象者や内容に応じて資料作成や講話を行った。 ○夏季教育相談を実施し、進路相談の場合は、主幹教諭と共に対応した。 ▲佐世保市子ども発達センターの新規の受診が8か月待ちの状態。佐世保市教育委員会が行っている教育相談も相談が多く、迅速な対応ができない状況。障害の有無の確認や検査希望の事例が多く、医療機関の受診希望が増加していると思われる。今後、市教育委員会や市教育センター、指導教諭等と連携を取りながら体制を整え、より一層教育機関における特別支援教育の理解・充実に努める必要がある。
<p>学校努力目標（3）－1</p>			
<p>②各市町の特別支援教育コーディネーター連絡協議会の取組の進展を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、連絡協議会を実施できていない。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策をしながら、可能な限り連絡協議会や研修会の計画・運営を行う。運営に当たり、各市町の課題や重点目標を委員で共有・確認し、取り組む。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症の影響により、小値賀町は全体研修会を中止したが、佐々町はDVD視聴による講話研修会、佐世保市はオンラインでの研修会を実施することができた。各市町の優先課題を重点目標に据えて次年度の取組につなげていく。 ▲今後、市町教育委員会を中心とした組織運営やネットワークの構築を図っていきたい。
<p>学校努力目標（3）－1</p>			

⑨ 情報教育部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①情報関係の様式整理やルールづくり、機器の使い方などのマニュアル作成を行い、環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末について、持ち帰りのルールづくり、備品貸与申請、許可通知書等の準備。 Wi-Fi（すいすいネットワーク関係）の活用。 リモート関係の環境整備。 	3	<p>▲スイッチなどの追加周辺機器の使い方を今後調べ、周知する。</p> <p>○一人一台端末について、持ち帰りのルールづくり、貸与申請、許可通知、iPadの使用計画、自宅への持ち帰り管理簿などの作成ができ、実際に持ち帰っている生徒もいる。</p> <p>▲来年度から県の情報セキュリティ管理要綱の内容が大幅に変更される予定（3月上旬連絡）なので周知徹底を行う。</p>
学校努力目標（2）-⑥ 学校経営目標 ⑤			
②定期的に職員向けの研修会を行い、iPadの機能やアプリの使い方を知り、授業で活用できる人材を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に職員向けの研修会を実施。 アプリの紹介を行い、活用を増やす。 アプリインストール方法の手順資料作成。 	4	<p>○計画的に県のICT関係の研修会と自校用の研修を7回実施できた。</p> <p>○アプリの紹介研修やアプリ動画をTeamsで配信できた。</p> <p>○あたご高等部では、授業でTeamsの活用者が増えた。</p> <p>▲iPadの機能やアプリの使い方をTeamsにアップしていることをポータルサイトで流したが、周知徹底できていない。</p> <p>▲今後、小中学部の児童生徒用iPad内のアプリを充実させる必要がある。</p>
めざす教師像 ②			
③紙媒体を含めて、情報を適切に管理する方法を徹底し、情報モラルを意識できる人材を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> 私有パソコン利用申請書や作業申請書、紙媒体持出申請書を情報セキュリティ研修会で配付し、申請しやすくする。 自動暗号化機能付きのUSB所持率を上げ、情報の流出を防ぐ。 パソコンや紙媒体の持ち出し申請書などファイル保管場所を周知し、記入を徹底する。 	3	<p>○家庭訪問や現場実習などの際に、紙媒体持出申請書や持出袋の活用ができた。</p> <p>▲個人用携帯電話での写真撮影があるので、児童生徒の個人情報の流出について注意が必要である。</p> <p>▲今後 Teams 内の個人情報についての管理が今後必要。また、生徒用iPad内の写真についても同意書などを取ることが必要である。</p>
学校経営目標 ⑦ めざす教師像 ③			

⑩ 文化部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①文化的行事の企画、運営を行い、児童生徒が生き生きと自己表現できる環境を作る。	・児童生徒の特性や実態に応じてきらめきフェスタなどの文化的行事の計画・運営を行う。	3	▲感染拡大の段階に応じた開催方法を検討したものの、新型コロナウイルス感染症の状況が変化する中で、十分な見通しをもって企画や運営ができなかった。
学校努力目標（2）－⑦			
②児童生徒の作品など、学習活動の成果を総合的に生かし、発表する場を設ける。	・児童生徒の様子を伝えるための学校だよりを年3回発行する。 ・文化行事や作品展など、校外作品展のお知らせを行う。 ・夏休み作品展など、校内作品展の計画や運営をする。 ・あたご小中部門玄関前の掲示板の掲示計画をする。 ・長崎県特別支援学校高等部生徒作品展の連絡調整を行う。	3	○学校だよりを年3回発行した。来年度はホームページ利用と関連させ、内容を見直したい。 ▲ふれあい作品展については、十分な情報の提供ができず参加者がいなかった。夏休み作品展は感染症対策のため中止になり、きらめきフェスタで展示した。 ○あたご小中学部玄関前の掲示板は、児童生徒の季節に合った掲示物を展示できた。 ○長崎県特別支援学校高等部生徒作品展に参加した。
学校努力目標（2）－⑦			
③図書の整備に努め、児童生徒が学びやすく、教師が授業を行いやすい環境を作る。	・年に2回、図書購入希望調査を行い、新刊図書を購入する。 ・新刊図書の紹介をする。 ・図書の整理や蔵書点検を行い、図書管理をする。 ・図書に関する情報収集を行う。	4	○新刊図書を購入し、図書室に新刊図書のコーナーを設置した。 ○夏季休業中に蔵書点検や図書室の整頓を行った。 ○「国際こども図書館」を利用し、展示した。 ▲図書室のパソコンの不具合があり、図書室を利用できない日があった。
学校努力目標（1）－②			

2 アンケートの結果

(1) 教職員アンケート

回収数 155/167 回収率 92.8% ※教職員数の分母は、R3.4.1 現在の数

評価基準〔4：よく当てはまる 3：やや当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：全く当てはまらない〕

NO.	具体的評価内容	昨年度	今年度	達成度
学校経営等				
1	学校や各部の教育目標や努力目標等が共通理解されている。	3. 2	3. 1	89.7%
2	教育目標や努力目標の設定に、教職員の意見が反映されている。	3. 1	3. 0	83.2%
3	各分掌等は、連絡を密にして学校経営に取り組んでいる。	3. 3	3. 1	85.2%
教育活動				
4	学校は、個々の児童生徒の指導目標や指導方針を保護者に説明している。	3. 5	3. 3	94.8%
5	学校は、保護者に日々の学習や生活の様子を知らせている。	3. 7	3. 6	96.1%
6	学校は、児童生徒一人一人の実態に合った教育活動を計画している。	3. 3	3. 3	94.8%
7	学校は、各部門や各部の特色を生かした教育活動に取り組んでいる。	3. 4	3. 3	93.5%
8	教員は、障害についての専門性や指導技術を身に付けるために研修会等へ参加している。	3. 0	3. 1	83.2%
9	学校は、授業において個々の能力や障害の状態等に応じた配慮や工夫をしている。	3. 3	3. 3	94.2%
10	学校は、家庭で取り組む課題を与えたり示したりしている。	3. 3	3. 1	89.7%
11	学校は、児童生徒の成長や変容の様子を的確に捉えて評価している。	3. 4	3. 2	94.2%
12	学校は、社会生活に必要なルールやマナーを指導している。	3. 5	3. 3	93.5%
13	学校は、進路に関する情報を保護者に提供している。	3. 3	3. 2	87.7%
14	学校は、保護者の相談に真摯に対応している。	3. 7	3. 6	95.5%
15	学校行事や校外学習などの内容や回数は適切である。	3. 2	3. 2	88.4%
16	学校は、児童生徒の健康状態を把握し、その情報を保護者に伝えている。	3. 6	3. 6	96.8%
17	学校は、健康・安全に関する指導を十分に行っている。	3. 5	3. 4	94.2%
18	高等部では、部活動に積極的に取り組んでいる。	3. 5	3. 5	91.6%
教育環境				
19	学校は、各教室や廊下など、校舎内外の清掃・美化に努めている。	3. 4	3. 2	91.6%
20	学校は、教育に必要な施設・設備が十分に整っている。	2. 7	2. 5	53.5%
21	施設・設備等は、児童生徒の安全に十分配慮されている。	3. 1	3. 0	78.7%
22	廊下や教室には、児童生徒の作品や季節の壁面装飾を掲示している。	3. 5	3. 4	96.8%
開かれた学校				
23	授業参観や学級懇談などの内容や回数は適切である。	3. 1	3. 1	88.4%
24	P T A 活動は活発である。	3. 2	3. 0	84.5%
25	学校は、近隣の学校や地域の人たちとの交流活動を積極的に行っている。	2. 9	2. 7	62.6%
26	学校は、教育活動などについて広く情報を発信している。	3. 2	3. 1	88.4%
27	学校は、地域の学校や保護者などからの相談に積極的に対応している。	3. 5	3. 2	92.9%

(2) 保護者アンケート

回収数 176/274 回収率 64.2% ※保護者数の分母は、R3.4.1 現在の数

評価基準〔4：よく当てはまる 3：やや当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：全く当てはまらない〕

NO.	具体的評価内容	昨年度	今年度	達成度
教育活動				
1	学校の経営方針は適切である。	3. 6	3. 4	96.0%
2	学校は、子供の指導目標や指導方針を分かりやすく説明してくれる。	3. 6	3. 4	91.5%
3	学校は、日々の学習や生活の様子を知らせてくれる。	3. 7	3. 5	91.5%
4	学校は、子供一人一人の実態に合った教育活動を行っている。	3. 6	3. 4	90.3%
5	学校は、各部門や各部の特色を生かした教育活動を行っている。	3. 6	3. 4	90.3%
6	教員は、障害についての専門性や指導技術を身に付けている。	3. 4	3. 1	81.3%
7	学校は、子供が分かりやすいような配慮や工夫をしている。	3. 6	3. 4	85.8%
8	学校は、家庭で取り組む課題を与えている。	3. 3	3. 1	81.3%
9	学校は、子供の成長や変容の様子を的確に捉えて評価している。	3. 6	3. 3	85.2%
10	学校は、社会生活に必要なルールやマナーを指導している。	3. 7	3. 5	94.9%
11	学校は、進路に関する情報を保護者に提供している。	3. 5	3. 4	91.5%
12	学校は、保護者の相談に真摯に対応している。	3. 6	3. 4	90.3%
13	学校行事や校外学習などの内容や回数は適切である。	3. 5	3. 4	92.6%
14	学校は、子供の健康状態についての情報を保護者に伝えている。	3. 7	3. 6	92.0%
15	学校は、事故防止のための指導を行っている。	3. 6	3. 4	93.8%
16	子供は、楽しく学校生活を送っている。	3. 7	3. 5	90.9%
17	学校は、部活動（同好会）の活動を盛んに行っている。※中高保護者のみ回答	3. 4	3. 1	84.1%
教育環境				
18	学校は、各教室や廊下など、校舎内外の清掃・美化に努めている。	3. 6	3. 5	96.0%
19	学校は、教育に必要な施設・設備が十分に整っている。	3. 5	3. 2	84.1%
20	学校は、子供の安全に十分配慮している。	3. 6	3. 4	90.9%
21	廊下や教室には、子供の作品や季節の壁面装飾を掲示している。	3. 8	3. 6	96.0%
開かれた学校				
22	授業参観や学級懇談などの内容や回数は適切である。	3. 4	3. 3	85.8%
23	P T A活動は活発である。	3. 3	3. 1	83.5%
24	学校は、近隣の学校や地域の人たちとの交流活動を積極的に行っている。	3. 2	3. 1	78.4%
25	学校は、教育活動などについて広く情報を発信している。	3. 5	3. 2	85.2%
26	学校の施設は利用しやすい。	3. 3	3. 0	75.6%
総合評価				
27	佐世保特別支援学校は、子供にとって望ましい学校である。	3. 8	3. 6	93.8%

(3) 児童生徒アンケート

回収数 210/274 回収率 76.6% ※児童生徒数の分母は、R3.4.1 現在位の数

評価基準 [◎：よく当てはまる ○：やや当てはまる △：あまり当てはまらない ×：当てはまらない]

※ ◎ → 4、○ → 3、△ → 2、× → 1として換算

NO.	具体的評価内容	昨年度	今年度	達成度
1	学校に来るのが楽しい。	3. 4	3. 5	97.1%
2	学級は雰囲気が良い。	3. 3	3. 5	95.6%
3	学校行事は楽しい。	3. 5	3. 5	96.6%
4	先生は、分かりやすく授業を進めてくれる。	3. 3	3. 5	97.1%
5	先生は、頑張ったことを褒めてくれる。	3. 3	3. 5	98.5%
6	先生は、宿題や手伝いなどの課題を出してくれる。	3. 2	3. 4	92.0%
7	先生は、進路についての情報を教えてくれる。	3. 1	3. 3	88.6%
8	先生は、私たちの意見をよく聞いてくれる。	3. 3	3. 5	96.4%
9	先生は、私たちの相談によくのってくれる。	3. 4	3. 5	96.4%
10	部活動（同好会）の活動は楽しい。※部活動（同好会）をしている人のみ	2. 7	3. 4	88.8%
11	学校は、きれいに掃除されている。	3. 4	3. 5	96.5%
12	授業で使う教室などには、必要な道具がある。	3. 4	3. 5	96.4%
13	学校は、安全である。	3. 5	3. 5	98.5%
14	学校には、作品などが飾られている。	3. 0	3. 4	94.0%
15	授業で、地域の人と一緒に活動することがある。	2. 6	2. 5	58.0%
16	学校の外に出掛けて学習することがある。	2. 9	3. 3	88.8%

3 改善策を検討する項目等の選定について

(1) 自己評価の結果から

【改善策を検討する視点】

・自己評価の数値が「2」以下の項目。

① 各部における自己評価の結果から

・自己評価の数値が「2」以下の項目はなく、全て3～4の評価だった。

② 各分掌部における自己評価の結果から

・自己評価の数値が「2」以下だったのは、生活生徒指導部の努力目標③のみで、それ以外は3～4の評価だった。

(2) アンケートの結果から

【改善策を検討する視点】

- ・平均値が中央値である 2.5 ポイントを下回った項目。
- ・昨年度と比較して、平均値が 0.5 ポイント以上下回った項目。
- ・「達成度」が 75%を下回った項目。
- ・自由記述に意見が挙げられた項目で、改善策の検討が必要又は望ましいと判断された項目。

「達成度」とは、4段階評価において「4」又は「3」と評価した人の全体に対する割合のこと。達成度 75%は、全体の 75%の人（4人中3人）が「良い」という評価である「4」又は「3」と評価したことを意味する。

① 教職員アンケートの結果から

- ・回収数は 155/167 で、回収率は 92.8%だった。
- ・平均値が 2.5 ポイントを下回った項目は、**NO.20**の施設・設備に関する項目の 1 項目。
- ・平均値が昨年度より 0.5 ポイント以上下回った項目はなかった。
- ・達成度が 75%を下回ったのは、**NO.20**の施設・設備に関する項目と、**NO.25**の交流活動に関する項目の 2 項目。
- ・自由記述の内容により、改善策の検討が必要又は望ましいと判断したのは、次の 3 点。

★担任の配置に関する意見。

★児童生徒が不適切な行動をとった際の対応に関する意見。

★教室不足、教材不足など、施設・設備に関する意見。（多数あり、**NO.20**と関連）

② 保護者アンケートの結果から

- ・回収数は 176/274 で、回収率は 64.2%だった。回答しやすいように web 上での回答としたが、回答率はそれほど伸びなかった。Web 回答が難しい保護者には、用紙を配付した。
- ・平均値が 2.5 ポイントを下回った項目はなかった。
- ・平均値が昨年度より 0.5 ポイント下回った項目はなかった。
- ・達成度が 75%を下回った項目はなかった。
- ・自由記述の内容により、改善策の検討が必要又は望ましいと判断したのは、次の 3 点。

★児童生徒への適切な教育活動に関する意見。

★保護者への連絡、説明に関する意見。

★挨拶や面談時の対応など、教職員としての態度に関する意見。

③ 児童生徒アンケートの結果から

- ・回収数は 210/274 で、回収率は 76.6%だった。回答するのが難しい児童生徒もいるため、このような数字となった。
- ・平均値が 2.5 ポイントを下回った項目は、**NO.15**の交流活動に関する項目の 1 項目。
- ・平均値が昨年度より 0.5 ポイント下回った項目はなかった。
- ・達成度が 75%を下回った項目は、**NO.15**の交流活動に関する項目の 1 項目。
- ・自由記述の内容により、改善策の検討が必要又は望ましいと判断されたのは、次の 1 点。

★児童生徒同士のレクリエーションに関する意見。

4 学校関係者評価の結果

(1) 学校関係者による評価

- ・学校運営は、適切に実施できている。
- ・学校評価は、自己評価やアンケートの実施、結果の処理、改善策の検討など、適切に処理できている。

(2) 学校関係者からの意見及び助言内容

- ・肢体不自由教育部門棟の玄関ホールで手芸の作品を販売しているが、知的障害教育部門の保護者も買いやすくと、お互いをよく知る機会になると思うので、工夫を望む。
- ・安全対策として、長時間の停電が発生した場合、人口呼吸器等の管理ができるように、今後、佐世保市との連絡・調整が必要であると感じる。
- ・リスクマネジメントでは初期対応が重要である。事故などが起きた際には、教員が自分だけで判断せず、管理職等に相談して迅速に対応することが保護者の信頼につながる。
- ・組織では、「ほうれんそう」(報告・連絡・相談)が重要であるとよく言われるが、管理職には「ほうれんそうのおひたし」(報告・連絡・相談、怒らない、否定しない、助ける、指示を出す)が大切だと言われている。人材育成の参考にしてほしい。
- ・コロナ禍ではあったが、ICT 機器をよく使って教育活動を行っている様子を感じ取れた。また、進路の実現や福祉事業所との連携に際して、教員の苦労を感じた。
- ・児童生徒の活動の様子や PTA 広報誌から、児童生徒が頑張っている様子がよく分かった。また、保護者から信頼を得ていることがよく分かった。
- ・児童生徒が製作した商品の紹介や販売、サッカー部の活躍が素晴らしいと感じた。
- ・知的障害教育部門高等部において、生活コースの生徒と総合コースの生徒が日頃から交流できるように学級編制を行うことは大切なことだと感じる。

5 具体的な改善策について

(1) 「長崎っ子の心を見つめる教育週間」、「道徳の日」、「ありがとうの7日間」について

- ・生活生徒指導部が中心となり、教務部と連携しながら実施計画を作成する。
- ・年度当初に職員全体に説明を行い、早目に取組を始められるようにする。

(2) 施設・設備について

- ・増築や移転などは県の予算が関係するので、早急に対応することは難しい。県教育委員会には、学校の実情を説明しながら継続して要望をしていく。
- ・改築を含めて現存の施設を有効活用できないか検討しながら、最低限必要な教室を確保するよう努める。
- ・授業に必要な教材については、部主事と相談の上、購入に向けて手続きを進める。

(3) 交流活動について

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、学校間交流や地域の方々との交流など、実際に会って一緒に活動するという機会を設定するのは難しかった。新型コロナウイルス感染症の影響は今後も続くと思われるので、感染状況を見ながら可能な範囲で設定する。
- ・手紙のやり取りなどの間接交流やオンラインでの交流など、コロナ禍でも実施できるように実施方法を工夫する。

(4) 担任の配置について

- ・教員の経験年数や所属している分掌部、過去の担任歴、分掌主任の有無、児童生徒の男女比などを考慮しながら学級担任を配置する。

(5) 児童生徒の指導に関する教職員間の共通理解について

- ・指導上配慮が必要な児童生徒については、各部で十分に検討を行い、一貫した指導を行う。
- ・指導内容や指導方法については、必要に応じて外部の専門家などにも相談をする。

(6) 児童生徒への適切な教育活動について

- ・児童生徒の人権を尊重するという意識を高めるため、人権に関する研修会の充実を図る。
- ・教員の専門性や指導技術をより向上させるため、教職員に研修会への参加を促したり、外部専門家の活用を継続したりする。
- ・指導のねらいや習得することで期待できる効果、指導の根拠、学習の成果と課題など、分かりやすく保護者に説明し、保護者の理解を促す。

(7) 保護者への連絡、説明について

- ・学校でけがや事故などが起きた場合には、すぐに保護者に連絡する。
- ・学校で起きたけがや事故で病院受診が必要となり、保護者がすぐに対応することが難しい場合は、タクシーなどを使って早急に受診させる。けがや事故の程度によっては、救急車を要請する。

(8) 挨拶や面談時の対応など、教職員としての態度について

- ・保護者から意見が出たことを教職員に説明し、一人一人の自覚を促す。
- ・家庭訪問や個別面談の時期には、教育支援部が作成している実施要項をポータルサイトのお知らせに掲載し、教員の意識の高揚を図る。

(9) 地域の人との交流活動について

- ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、感染リスクが低くなったら活動を再開する。

(10) 児童生徒のレクリエーションについて

- ・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、学級活動や生徒会活動など、児童生徒が中心に企画・運営する機会を設定し、実施に向けて援助する。

6 総括

- ・北松分校が今年度開設されたことを受け、今年度は北松分校と協力しながら学校評価に関する業務を分担して行った。業務の負担を軽減するという意味からも、今後も連携して取り組んでいくこととする。
- ・教職員アンケートは web 回答とした。育児休暇や病気休暇の該当者もいたが、それ以外で回答していない教職員が数名いて 100%の回収はできなかった。特に、会計年度任用職員については、回答の対象者であることや、所属をどこにするのかなど、事前の説明が足りなかったと思われるので、来年度は十分に説明してから実施する。
- ・保護者アンケートは web 回答とし、web 回答が難しい保護者には用紙を配付したが、回収率がそれほど伸びなかった。回答状況を時々チェックしながら未回答の方には再度依頼をするなど、回収率を上げる努力が必要だった。(今年度の回収率は 64.2%、昨年度は 84.6%)
- ・教職員、保護者、児童生徒アンケートは、内容の整理と文言の修正を行ったが、評価しにくいと思われる項目があること、カリキュラム・マネジメントとの関連を図ることなどの理由から、来年度は質問項目を十分に検討し、必要に応じて修正を行っていきたい。
- ・今回、評価が高かった項目については、評価結果に甘んじることなく、今後も取組を継続するよう努める。